



ラグビーワールドカップ2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA



ラグビー ワールドカップ 2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in
HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA

TM © Rugby World Cup Limited 1986. All rights reserved.



ラグビー ワールドカップ 2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in
HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA



19世紀のイングランドで、フットボールの試合中に、ウィリアム・ウェブ・エリス少年がボールを持ったまま走った「反則」がラグビーの起源と言われ、その故事にちなみ優勝トロフィーは「ウェブ・エリス・カップ」と呼ばれている。

4年に一度じゃない。
一生に一度だ。

ONCE IN A LIFETIME





2019年11月2日 決勝 横浜国際総合競技場

南アフリカがイングランドを下し、世界の頂点に立った。

王者の証であるウェブ・エリス・カップが、彼らの手で横浜の夜空に高く掲げられた。



決勝の南アフリカ対イングランド。入場者数は今大会最多の70,103人となり、競技場としても2002FIFAワールドカップ™決勝を超え、歴代最多記録を塗り替えた(11月2日)

01

Inside International Stadium Yokohama

横浜国際総合競技場で繰り広げられた数々のドラマに世界中が熱狂した

横浜国際総合競技場では決勝、準決勝2試合を含む6試合を開催。ニュージーランド代表のハカから幕を開け、台風19号による試合中止の危機を乗り越えての日本代表の決勝トーナメント進出、そして南アフリカ代表の優勝。神奈川・横浜で繰り広げられた数々のドラマに世界中が熱狂した。



準決勝、ウェールズ対南アフリカ。わずか3点差の接戦だった(10月27日)

準決勝でイングランドとニュージーランドが激突。ハカに対抗するV字隊列が話題となった(10月26日)



日本中が見守った日本対スコットランド。日本は勝利し、初の決勝トーナメント進出を決めた(10月13日)



イングランド対ニュージーランドの熱戦に会場は興奮の渦に包まれた(10月26日)



決勝トーナメント仕様に装飾された選手入場ゲート



世界トップレベルの試合を真剣に見つめる県内ジュニアラグビー選手たち(9月21日)



選手のロッカールームもラグビーワールドカップ仕様に



世界のトップが激突し、世界中が熱狂した決勝でイングランドに勝利し、3度目の優勝を決めた南アフリカ。ノーサイドの瞬間、南アフリカのサポーターは歓喜し、イングランドサポーターは勝者を称えた(11月2日)



応援するチームのジャージを身にまとい、ワクワクした表情で競技場に向かう人々。応援する気持ちに国籍は関係ない

02 Around International Stadium Yokohama

世界中から集まった ラグビーファンが 期待を胸に競技場へ

世界最高峰のラグビーを観戦するため、
世界中からラグビーファンが横浜国際総合競技場に集まった。
競技場周辺は、試合前から日本人も外国人もお祭り騒ぎだ。



海外メディアも多数訪れ、神奈川・横浜は世界に大きく発信された



競技場入場のため、チケット認証の順番を待つ大勢のラグビーファン



入場ゲートには、オープン前から入場を待ち望むファンの待機列が



世界中から訪れたラグビーファンで、新横浜・小机の街は大賑わい



大会を支える公式ボランティアによるおもてなし。フォトフレームで記念撮影



03 Fanzone Events

神奈川・横浜と世界が 出会うファンゾーン

ラグビーワールドカップ2019™を通じ、
このファンゾーンという空間で、
神奈川・横浜と世界が出会い、大きな感動と興奮を分かち合う。
この出会いは4年に一度じゃない。一生に一度だ。



ステージでは、神輿や
歌舞伎の「連獅子」など、
出場国や日本の文化
パフォーマンスを実施

パブリックビューイング
を楽しむ観戦客。13日
間で25試合を放映





「ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜」。全開催都市で最大面積を誇り、13日間で約15万3,700人が来場した



誰でも気軽にラグビーの楽しさを体験できるアクティビティ。子どもにも大人気



ラグビー観戦には欠かせないビールを飲みながら、神奈川・横浜の老舗・名店の味や出場国の料理が楽しめた



退場時には、ボランティアがハイタッチでお見送り



大会期間中は、身長約9mの巨大ラグーマンのモニュメント『Big Try』をはじめ、街灯バナーやフラッグなどの都市装飾でラグビー一色に

04

Snapshots During the Games

神奈川・横浜の魅力を世界へ

大会期間中、国内外から多くの観戦客が神奈川・横浜を訪れた。

この大きなチャンスに神奈川・横浜の魅力を感じていただくため、街の賑わい創出やシティプロモーションに取り組んだ。



ランドマークプラザの中にも懸垂幕を設置。三菱地所株によるラグビーボールの装飾も施され、官民一体で大会を盛り上げた



新横浜エリアで花と緑による華やかさや賑わいを演出



大船駅構内の大型パネル



小田原市の北条早雲像にオーストラリアチームキャンプ受入に向けた装飾が施された



大会期間中、外国人観光客で賑わう鎌倉の鶴岡八幡宮



国内外からの観光客で賑わう横浜・野毛。外国人も日本人も、昭和レトロな野毛の街の魅力を、夜遅くまで楽しんだ



横浜中華街や三溪園など、横浜を代表する観光地も大会期間中、国内外からの観光客で賑わった



決勝1年前を記念して横浜市庁舎前で開幕までの時を刻むカウントダウンボードの除幕式を行った（2018年11月2日）

05 Leading Up to the Games

オール神奈川・横浜で大きく盛り上げた ラグビーワールドカップ2019™

この大会の大きな盛り上がりは、一朝一夕でできたものではない。
開催都市に決定してからオール神奈川・横浜で積み重ねてきた一つひとつの取組が、
実を結んだ結果だった。



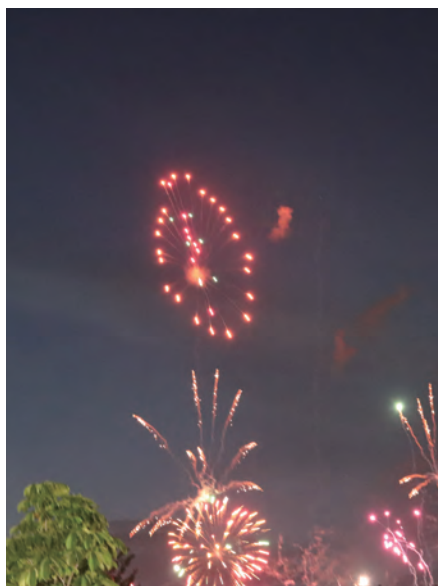
神奈川・横浜の関係者が一堂に
会し、大会の成功に向け、決起
集会を行った（2019年7月11日）



大会2年前イベントで行われた「開催都
市特別サポーター（神奈川県・横浜市）
委嘱式」の様子（2017年9月18日）
左から、黒岩神奈川県知事、鈴木彩香氏、
林敏之氏、吉田義人氏、林横浜市長



ツイッターなどのSNSやホームページで
国内外向けにラグビーのルールから
神奈川・横浜の魅力まで情報を発信



決勝100日前イベントで打ち上げられた「ラグビーボール型花火」(2019年7月25日)



開幕100日前イベントでスコットランドの楽器であるバグパイプの演奏パフォーマンス(2019年6月15日)



鎌倉 長谷寺で開催したパブリックビューイング(2019年8月3日)



トライを決める写真が撮れるトライフォトはイベントの人気コンテンツ



鎌倉大仏殿高徳院に展示された優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」(2019年8月31日)



海老名駅のカウントダウンボード除幕式(2019年3月3日)

06 Host City Initiatives

安全・円滑な大会運営と最高のおもてなし

国内外から訪れる大勢の観戦客を安全・円滑に競技場へ送り届けること、そして大会を通じて、神奈川・横浜での体験が最高のものとなるようおもてなしすることが開催都市の使命。

オール神奈川・横浜で全力で取り組み、「世界最高レベル」と評された。



神奈川・横浜で行われる試合当日やファンゾーン開催日には、横浜駅など主要駅に案内デスクを設置



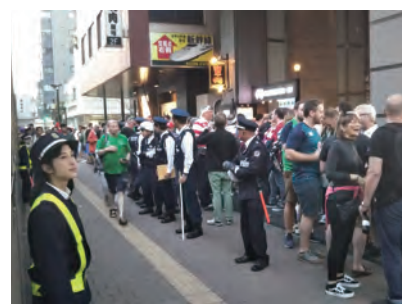
大会の顔である公式ボランティアは、競技場やファンゾーンへの案内誘導などを担い、外国語対応も含めホスピタリティあふれる対応で、高く評価された



外国から訪れた観戦客に笑顔で声掛け



試合当日は、競技場近くの「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に、競技場外での案内誘導や警備をはじめ開催都市運営を総括する「開催都市大会運営本部」を設置した



競技場周辺の交通誘導を行う警備スタッフの活動



ファンゾーン開催日には、オープン前のミーティングでボランティアとスタッフが円陣を組み気を入れた



試合前の競技場で、県内のマーチングバンドとバトンのチームがパフォーマンスを披露し、国内外からのラグビーファンをおもてなした(9月21日)



試合開催日に新横浜駅北口西広場で開催したおもてなしイベントでは、書道体験などが外国人に人気。出場国・地域のアンセムをみんなで歌うステージイベントも大盛況だった



トロフィーツアーで来日したウェブ・エリス・カップを見つめる小田原ラグビースクールの子どもたち

07 Rugby Experiences for the Next Generation

将来を担う神奈川・横浜の子どもたちへ

ラグビーワールドカップ2019™は、
 多くの人に感動を与え、記憶に残る歴史的な大会となった。
 この大会の成果を一過性のものとすることなく、
 将来を担う神奈川・横浜の子どもたちへの贈り物（レガシー）
 として遺していかななくてはならない。



横浜国際総合競技場で行われる試合
 でボールパーソンを務めた慶應義塾高
 校蹴球部の部員たち



スコットランド代表ヘッドコーチによる
 ラグビークリニックに参加した横浜市内
 の高校生（2019年4月22日）



小田原市のオーストラリア代表
 歓迎セレモニー



日本を含む7カ国・地域の子どもたちによるラグビー交流「どもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」を開催(2019年4月17日～22日)

ラグビーの試合や文化体験などを行い、子どもたちにとって忘れられない体験となった



ラグビー元日本代表選手などの小学校訪問事業でタグラグビーを体験



吉田義人氏による親子ラグビー教室



現役選手も参加して出場国の料理を給食で(2019年9月13日)

ごあいさつ



神奈川県知事
黒岩祐治

アジアで、そしていわゆるラグビー伝統国以外で初めて開催された「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」は、日本各地で44日間に渡る熱戦を繰り広げ、南アフリカの3大会ぶり3度目の優勝で、大成功のうちに幕を閉じました。

決勝戦開催の地として、神奈川・横浜がその重責を無事に果たすことができ、ワールドラグビーのビル・ボーマント会長からも「もっとも偉大な大会であった」と最大級の賛辞をいただいたことも、開催地の知事として大変誇りに思います。

これも、神奈川県と横浜市がしっかりとスクラムを組み、長期にわたり準備を進めてきたからこそその成果であり、大会関係者の皆様をはじめ、大会の顔として活躍いただいたボランティアの皆様、そして県民の皆様の力が、まさに「ワンチーム」として結集したからこそこのことと、深く感謝申し上げます。

私たちは、大会を通じて各国代表チームの戦いや振る舞いに触れることで、「多様性の持つ強さ」、「力を合わせることの大切さ」、「他者を尊重する美しさ」などを改めて実感することができました。これは、本県が目指す「ともに生きる社会」のキーワードである「リスペクト」にも通じるものであり、県民の皆様の心にレガシーとして刻まれたことは、本大会の大きな成果と考えています。

また、世界中から訪れた観戦客の皆様との心の通った交流も印象的であり、神奈川・横浜の魅力を多くの方に感じていただけたものと思っています。

ラグビーワールドカップを契機に醸成された、スポーツへの関心や盛り上がり、そして「心のレガシー」を、2020年の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」、2021年の全国健康福祉祭「ねんりんピックかながわ2021」へと着実に繋げてまいります。

最後になりますが、改めまして本大会の開催に関わっていただいたすべての皆様方に御礼申し上げますとともに、皆様の御健康と御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



横浜市長
林 文子

アジア初の「ラグビーワールドカップ2019™」は、ボランティアや市民の皆様の御協力のもと、多くのお客様を心温まるおもてなしでお迎えし、記憶に残る素晴らしい大会となりました。また、神奈川県とは、誘致をスタートした当初から一緒に歩みを進め、このたびの大会の成功につながりました。お力添えを賜りました全ての皆様に、深く感謝申し上げます。

開催にあたり、組織委員会の皆様と全12開催都市が着実に準備を進め、44日間の大会を成功裏に終えることができ、日本の魅力を世界中へ大きく発信することができました。開催自治体協議会会長として、厚く御礼申し上げます。

横浜市では、決勝を含む6試合が開催され、闘志溢れるプレーや、互いを尊重し、称えあうノーサイドの精神に、世界中が感動と興奮の渦に包まれました。開催期間中、台風が日本を直撃しましたが、関係者の皆様の懸命の復旧作業により、「日本 対 スコットランド」戦の開催に漕ぎつけました。その結果、ラグビーファンはもとより、日本中の人々の心を震わせた日本代表チームの勝利が、この横浜の地で実現しました。

横浜国際総合競技場には、国内外から延べ401,742人、臨港パークのファンゾーンにも、延べ153,700人ものお客様にお越しいただきました。特に、「イングランド 対 南アフリカ」の決勝の入場者数は、今大会最多の70,103人となり、同競技場の入場者数歴代1位を記録しています。横浜の街は、国内外から訪れる多くのお客様の笑顔で溢れ、大変な賑わいとなりました。

このたびの大会で醸成されたスポーツへの関心や賑わいを、皆様と一緒に「東京2020オリンピック・パラリンピック」に繋げてまいります。

むすびに、本大会に御支援・御協力いただきました皆様の御健勝と益々の御清栄を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

CONTENTS 〈目次〉

カラーグラビア 002

ごあいさつ 018

CHAPTER 1

ラグビーワールドカップ2019™ 神奈川・横浜開催へ 021

大会概要、開催概要 022

神奈川・横浜開催への軌跡 024

開催期間中の神奈川・横浜 030

CHAPTER 2

安全・円滑な 大会運営に向けて 035

開催都市 神奈川・横浜 036

開催都市大会運営本部 042

台風19号への対応 047

交通輸送 049

大会警備 053

ボランティア 058

権利保護 066

医療救護 067

危機管理 068

公衆衛生対策 069

会場整備 071

公認チームキャンプ地 077

CHAPTER 3

神奈川・横浜から 大会を盛り上げよう 081

機運醸成の取組の概要 082

機運醸成イベント 084

広報 094

ブース出展 098

市内18区及び県内市町村との連携 099

ラグビー普及 100

国際交流 102

CHAPTER 4

神奈川・横浜の 魅力を世界へ 105

ファンゾーン 106

シティドレッシング 122

試合開催日のイベント 128

ホストシティパフォーマンス 130

街の賑わいと観光振興 131

「花と緑にあふれる環境先進都市」の取組 138

滞在環境の向上 141

CHAPTER 5

レガシー 神奈川・横浜の未来へ 143

発祥の地から決勝の地、そして未来へ 144

オール神奈川・横浜の
開催能力とおもてなしを後世につなげる 146

神奈川・横浜のラグビーの未来のために 150

ラグビーワールドカップ2019
神奈川・横浜開催を終えて 156